

サイの御教え

一九八二年ダシヤラー祭の御講話④  
神の声

天国は上にはなく

ここ、人間界の中にある

人間が善い生活を送るとき

この世界そのものが楽園となる

愛の化身たちよ！

ヴェエーダはリシ〔聖仙〕たちの声として知られていま  
す。リシは直観的に真理を感じします。リシは過去・現在・  
未来を見ることができません。リシは執着とは無縁です。  
神の声が世に明かされたのは、そうした高次の魂を持つ  
先覚者たちのおかげです。その啓示は神についての真理  
を示しています。それは四つのヴェエーダで構成されてい  
ますが、四ヴェエーダは七つのサンヒターに分けられてい  
ます。ヴェエーダの中では、リグヴェエーダとサーマヴェエ  
ーダとアタルヴァナヴェエーダの三つが重要です。サンヒ

ターとはマントラの集成を意味します。サンヒターの中  
に三種の部門が生まれました。それはブラーフマナとアー  
ランニヤカとウパニシャッドです。

ブラーフマナは、マントラという形の中に実在の科学  
を具体的に例示しています。マントラはヤグニヤやヤー  
ガに関連しています。ブラーフマナの主な目的は、ヤグ  
ニヤに関する決まりを教え、その執り行い方を説明する  
ことです。

よく知られているブラーフマナには、アイタレーヤ  
ブラーフマナ、タイトイリーヤブラーフマナ、シャ  
タパタブラーフマナ、シャッドヴィムシャブラーフマ  
ナがあります。

ブラーフマナとサンヒターの間には密接な関係があり  
ます。ブラーフマナは、人々が神に関連するマントラを  
唱え、そうすることで神の恩寵を確保することによって

願望をかなえられるようにすることを意図しています。ブラーフマナはこの世とあの世のものに関係するものであって、ブラフマンを悟ることに専念するものではありません。人間の願望はすべて、この世に関係するものであり、欲望や憎しみと結び付いています。

#### 神と一つになることを実現する四つの段階

次に、アーランニヤカが来ます。アーランニヤカには主にブラーフマナからのマントラが含まれています。詩的で散文的な句も含まれます。それらのマントラは、家庭生活を手放してヴァーナプラスタアーシユラマ〔林住期〕に入り、隠遁者となって森〔アーランニヤ〕に住んでいる人が学ぶよう意図していたため、アーランニヤカ〔森林書〕と呼ばれるようになります。また、古代、リシは森に住んでいて、神に関連するマントラを絶えず唱えることに専念していたことから、これらのマントラはアーランニヤカと呼ばれるようになります。アイトレーヤウパニシャッドとタイツティリーヤウパニシャッドは、アーランニヤカのグループに属します。

三番目のグループは、ウパニシャッドで構成されています。人間の一生は、ダルマ、アルタ、カーマ、モークシャという四つの人生の目標（ブルシャアルタ／プルシャールタ）に準拠することによって示されます。教養には二種類あります。一つは世俗的な知識（アパラヴィツディヤ／高次でない知識）で、もう一つは永遠の知識（パラヴィツディヤ／高次の知識）です。リグヴェエダとヤジュルヴェエダとサーマヴェエダは、アパラヴィツディヤに関連しています。これらのヴェエダは、人生の四つの目標を理解するのに役立ちます。

ヴェエダは、人がブラフマンの神の性質を理解するのに役立つかもしれませんが、人をブラフマンへと導くことはできません。

神の悟りには四つの段階があります。それは、サーローキヤム（神を見ること）〔神を黙想すること〕、サールーピヤム（神の姿を楽しむこと）〔神と自分を同一視すること〕、サーミーピヤム（神への近接）〔神の近くにいたいこと〕、サーユツジャム（神に帰融すること）〔神と一つになること〕です。近接の段階（サーミーピヤム）に到達すると、帰融の段階（サーユツジャム）はそれほど遠

くありません。海に達したガンジス川が後戻りしないのと同様に、神への近接を経験した人は後戻りしません。

四ヴェーダは人が神に近づくことを可能にしますが、人が神と一つになることを可能にするのはウパニシャドです。ウパニシャドは、実在を感じてそれを楽しんでリシたちの体験と忘我の悟りの体現です。ウパニシャドは、ウパニシャドを唱えるべき方法も定めています。ウパニシャドは、音と韻律に十分注意を払って唱えられたときのみ、望ましい結果をもたらします。

### 感覚器官を制御するための補助具

ウパニシャドのマントラを唱えるには八つの方法があります。それは、ジャタ、ガーナ、マラー、シクハー、レーカ、ドウワジャ、ダンダ、ラードワです。これらのうち最も重要なのはジャタとダンダです。これ以外はこの二つのバリエーションです。

ジャタの唱え方は、七つのパーカヤグニヤ、七つのハヴィスヤグニヤ、七つのソーマヤグニヤを執り行うのに不可欠なものです。これら二十一のヤグニヤは、五

つの行動感覚（カルメーンドリヤ「カルマインドリヤ  
|| 口・手・足・生殖器官・排泄器官」、五つのグニヤ  
ネーンドリヤ「グニヤーナインドリヤ || 目・耳・鼻・舌・  
皮膚」（認知感覚）、五つのタンマートラ（微細元素「音  
（シャブダ）・感触（スバルシャ）・形（ルーパー）・味（ラサ）・  
香り（ガンダ）」、五つのプラーナ（生氣）「プラーナ（入  
気）・アパーナ（排出）・サマーナ（消化）・ヴィヤーナ  
（循環配分）・ウダーナ（再生表現）」、そして、エゴの原  
理と結び付いています。したがって、すべてのヤグニヤ  
がそれぞれ一つのインドリヤに関連しているのです。

プラーフマナとアーランニヤカとウパニシャドは、  
感覚器官を制御するための補助具です。マントラではさ  
まざまな神が言及されていますが、さまざまな目的のた  
めに、さまざまな御名で呼ばれているのは、一なる至高  
神です。雨を降らせるために神を招聘するときには、イ  
ンドラという御名が呼ばれます。ヴァルナ「水の神」は  
別の目的で招聘されます。ムルッテュンジャヤマント  
ラを唱えるときは、（一般に信じられているように）死  
を征服するためではなく、不自然な死や早すぎる死を避  
けるために唱えます。

人生の毎日をヤグニャと見なしなさい

どのヴェーダも人が自分の日常生活を神聖で善良なものにするのを可能にすることを意図している、ということに注意すべきです。人生はつかの間ですが、割り当てられた寿命は神聖な目的や神を悟るために使わなければならないません。ヴェーダには人が自分の人生を変えて昇華するのを可能にする力があります。

意識的であろうとなかろうと、人は朝から晩までヴェーダに定められている義務を果たしています。すべての行為はヴェーダの指示によって左右されますが、行為の目的を理解して行為が行われた場合にのみ、その行為の本当の性格がわかります。同様に、すべてのヤグニャ、すなわち犠牲の行為は、神の歡心をかうことを意図しています。

ヤグニャでは、ギーが祭火に捧げられます。ギーを手に入れるには牛乳を確保する必要があります。牛乳を提供できるのは牛だけです。サンスクリット語の「ギー」という単語は、牛だけでなくヴェーダのことも指してい

ます。さらに、地球のことも指しています。また、ハートの領域も指しています。古代のリシたちは、ヴェーダが述べている「ギー」は物質界で述べられている牛という意味の「ギー」と同じであることを立証しました。

ヤジュルヴェーダは、最高の義務として牛の保護を命じています。なぜなら、牛は浄性の食物で生き、高潔な性質を持っている動物だからです。

ヴェーダのマントラの内なる趣旨をすべてのバーラタ人が理解すべきです。ヴェーダの地に生まれていながらヴェーダの意味と趣旨の理解に欠けているというのは、外国人に自分たちを低く評価されることを意味します。私たちの生活のすべてはヴェーダと固く結びついていました。私たちは毎日をヤグニャと見なさなければなりません。私たちが発するすべての言葉はマントラにならなければなりません。

ダシャラー祭ヴェーダプルシャへの七日供儀

プラシャーンティニラムにて

一九八二年十月二十二日

Satyva Sai Speaks Vol.15 C52